

13年の修業が独創の源 有田が認めたるくろの技

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)が、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりの挑む「匠」を応援する。

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」など多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家/東京大学教授)、生駒芳子氏(ファッションデザイナー/ナリスト/アーティスト/プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。

昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主催のチャリティーイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51人の若き匠が選出。昨年度、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ね、途中経過のプロダクトをうけて行うエリア・コンサル

1月17日、プレゼンテーションにて



1月17日、プレゼンテーションにて



エリア・コンサルティンクの様子



プレゼンテーションする白須さん

ティンクを経て匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店、セレクトショップ、バイヤー、メディア、デザイナー関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。また、商談会の終盤では、ヒール、スリッパなどのコラボレーション企画「LEXUS NEW TAKUMI」新しい匠新しい暮らし」が発表されるなど、プロジェクトも進化している。

「伝統を守りながら新しい感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながらその魅力を世界へ広く発信する。

LEXUSが掲げる「種双生」を地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。佐賀県選出の匠、白須美紀子さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

絵付け、彫りにも非凡の才

日本の棚田百選の一つ佐賀県有田町に広がる「岳の棚田」。そのただ中に、白須さんの作陶の場である矢鋪與左衛門窯はある。小さいころから絵を描いたり、ものを作ることが好きだった白須さん。焼き物なら、絵も形もすべてを表現できると、何かに導かれるように陶芸の道志した。高校卒業後、有田窯業大学で4年間、焼き物作りを学び、2011年、後に現代の名工となる矢鋪與左衛門さんに弟子入りした。

師匠宅に住み込み、ただひたすらろくろを回す毎日。自由な創作は、一度もなかった。そして2013年、伊万里有田焼伝統工芸士認定試験の成形部門(ろくろ)に女性として初めて合格。15年には国家資格の陶磁器製造技能士(ろくろ)成形作業の1級にも合格した。ろくろ師として認められる立場となり、師匠である矢鋪さんの薦めもあって、ようやく「自らの作品を作り始めた。



作品を焼き上げる登り窯

ろくろは、土を均一な状態にならすための「上げ下げ」といわれる作業が何より大変。男性でも骨が折れる工程だ。身長147センチと小柄な白須さん



師匠の矢鋪さんと白須さん

にとっては一層なる重労働だが「技術でカバーするしかないから」と屈託がない。矢鋪さんも苦勞を苦勞と思わない。こんな頑張り屋さんはいないと断言するほどの一途だ。

LEXUS NEW TAKUMI PROJECTへの参加の話があったとき、白須さん自身は参加するかどうか迷っていた。ここでも矢鋪さんが背中を押してくれた。「この子はろくろはもちろん、絵付けも彫りもできるオールマイティー。チャンスがあればもっと才能が開くはず。師匠の期待を受け止め、白須さんは参加を決めた。

挑戦するからには、一度も作ったことがないものを考え、持てる技術の全てを注ぎ込むと決めた。大勢の前でのプレゼンテーションにはあまり自信はないし、パソコンで資料を作ることも苦手だ。しかし、プロダクトを見せられれば、きっと良さが伝わるはずと思えた。日本を代表する陶磁器の産地・有田に認められた高い技術力が、いつの間にか大きな自信となっていた。

プレゼンテーションを終えて、作り手の思いがこもった質の高い作品には、底堅いニースがあることを感じた。有田焼400年の歴史を受け継ぐ白須さんの、独創への挑戦が始まった。

心を込めた仕事届けたい

白須 美紀子
佐賀/伊万里・有田焼ロクロ伝統工芸士

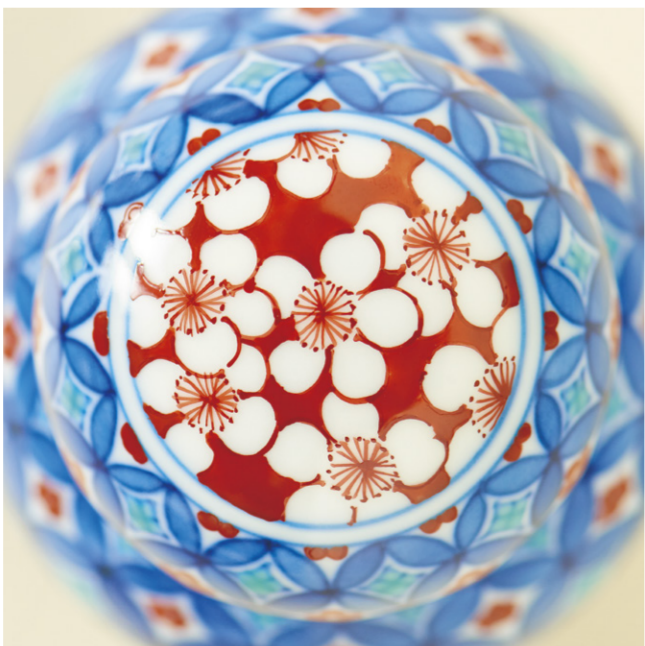


ろくろに向かう白須さん

白須さんのプロダクトは、動物の骨壺(宝温壺)ほ「おんこ」。手のひらサイズの小さなふた付きの壺で、ろくろで形作られた丸みを帯びたフォルムが、温かさを感じさせてくれる。大の動物好きという白須さん。「大量生産品でなく、それぞれのペットにぴったりの骨壺を作ることができないか」と考えていたことから、「小さな家族」のための骨壺というイメージで作ることになった。

「心の行き届いた仕事」を心がけている。機械ではなく、手ろくろで作り上げるからこそ、大きさも形も絵柄も、それぞれの思いに寄り添って作ることができる。ちょうどふた付きの器のアイデアを考えていた時期でもあり、小さな骨壺を作ることを決めた。

エリア・コンサルティンクの際には、さまざまな形と絵柄のプロダクトが用意された。生駒氏も、試作品とは思えないクオリティーに感心しきり。フォルムの完成度には、このままで進



完成プロダクト「宝温壺(ほうおんこ)」



指先に神経を集中させる

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



窯の前に広がる「岳の棚田」



白須 美紀子
佐賀県/伊万里・有田焼ロクロ伝統工芸士

1978年佐賀県佐賀市生まれ。2001年佐賀県立有田窯業大学校で絵付けやろくろを学び、卒業後現代の名工矢鋪與左衛門窯に弟子入りする。2013年伊万里・有田焼ロクロ伝統工芸士認定、2015年にロクロ技能士検定一般に合格。身長147センチと女性の中でも小柄な体ながら、精力的に制作を続ける。2014年内閣府女性チャレンジ賞、2011年全国技能士連合会会長賞受賞。

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT